

12月	豊川 愛護モニター報告	モニター区間	豊川:左右岸 当古橋～新城橋
実施日	令和2年12月31日	実施区間	管轄出張所:一宮出張所 三上橋～江島橋



左の写真は、河口より21kmの右岸より上流を望んでいます。遠く江島橋が見えます。このあたりは、大きく左に蛇行しており、古くより水害が多発したエリアです。右の写真は対岸の左岸ですが、昭和44年8月の洪水で決壊した場所です。とはいえ、このエリアには、松原用水と言って、東三河の水田を潤した貴重な水源となっていました。文献によりますと、明治2年に井堰が(豊川市松原町)に移築され、新水路が宝川の廃墟を利用して幅2間、長さ600間を開削。改修費1700両のうち700両は吉田藩より補助。残り1000両は松原用水井組24か村が負担したとあります。往時はこのあたりまで、河口より帆掛け船が上ってきて、それはたいそうにぎわっていたと父から聞かされました。近くの飯田線「長山駅」近くには遊園地もあったとか。ちょっと信じられませんが。



左の写真は、河口より15kmにある、豊川水管橋です。美しい橋で、耐震工事もバッチリとされていると聞いています。豊川の景観を引き締め、人々の命をつなぐ水を通している頼もしい施設です。引き続き、しっかりと管理していただきたいと思います。

右の写真は、河口より17km付近の左岸の工事風景です。堤防道路を走っていると、通行止めとなっており、何の工事をしているか、いまひとつわかりにくいと感じました。調べたところ、浸透対策を実施し、堤防強化をしているとの事でした。この堤防の左の農地は霞地区となっており、豊川の水位が上がると遊水地となり、そこを通る県道は稀に通行止めとなるエリアです。私の高校生時の自転車通学路で、大変困った思い出があります。近年は水位の管理も強化され、その頻度も少なくなりましたが、大洪水時は心配です。霞対策の事業について、早期進捗を期待します。